

## デビッド・アレクサンダー教授からのメッセージ（日本語訳）

多くの国では、災害の記憶を保存することに対して抵抗があります。博物館や目立つモニュメントは、その地域の「ポジティブなイメージを損なう」と言われてしまうことが多いからです。しかし、歴史の否定的な印象と肯定的な印象の両方を覚えておくことが大変重要です。災害の記憶は、世代が別の世代を引き継ぐにつれて衰退する傾向があります、その結果、災害の教訓は容易に失われてしまいます。災害からの最大の教訓は、大災害のリスクを真剣に受け止め、適切なレベルの準備を維持する必要があるということを経験することです。これには、一般の人々だけでなく、行政やエンジニアなど様々な人々が、何が起こり得る可能性があるのか、そしてそのような災害によってどのような結果になるかを事前にしっかりと理解する必要があります。

東日本大震災津波の記憶を保存する日本の文化とそして陸前高田の姿勢は素晴らしいです。災害の展示は繊細にレイアウトされ、適切に設計され、エレガントで、知性があり、控えめでも誇張もない新しい試みの博物館です。視覚的なインパクト、口頭での証言、書面とビデオの資料、災害の遺物が素晴らしいバランスで組み合わせられています。そのためパワフルで関連性のあるストーリーが日常生活に関連して自然に語られています。博物館は、命を失った人々にふさわしい記念碑でもあり、災害の長い余波の中で逆境に苦しんでいた人々への壮大な証言となっております。

文化の変化をもたらすことは困難です。忍耐、リソース、粘り強さ、技巧が必要です。常に存在する災害の脅威について記憶喪失に陥るような社会ではなく、災害に対する意識、知識、準備、準備の文化を継続的に成長させる社会が必要です。岩手県の東日本大震災津波伝承館は、災害への備えに関するメッセージを強化し、広めるためのエレガントで適切な手段です。それは地元の人々に何らかの災害からの終息をもたらす方法でもあります。災害ミュージアムの展示により被災地の人々の、ヒロイズム、自己犠牲、苦しみによって特徴付けられる歴史のエピソードを記録しています。これらの素晴らしい展示は将来、津波が襲ったときに苦しみが少なくなることを期待する未来への希望のメッセージを皆に与えています。